

なければ、帰れない人も大勢いたんだな、と
 思いました。家に帰ってから、道路そうじを
 しました。次の日には、学校のそうじにも行
 きました。すると、五十人ほどのボランティア
 アの人がきてくれました。学校が早く直った
 のは、この人たちのおかげだな、と思いました
 た。それに、おみまいの手紙やぎえん金も届
 きました。すごく勇気づけられました。
 十月二十三日、大地がわたしたちをおそっ
 てきた日、わたしは家の中にいました。ゆれ

くれたのです。わたしたちはそのおかげで暖
 かくなりました。その時、助かった、という
 安心感があふれてきました。消防署の人は、
 夜中にずと、グラウンドの水ぬきをしてい
 てくれました。帰れるようになる、という喜
 びは忘れられません。先生たちは、ケイタイ
 電話で残った人の家族に、電話を入れてくれ
 ました。どんなに心強かったです。たかわかりませ
 自衛隊員さんは、水につかっている学校前の
 道路をホートではこんでくれました。もし、

たとき、家族がかくま^ってくれました。こわ
 か^ったけど、安心できました。外へ出たら、
 近所の子供がいたので、
 っ^っだいじょうぶ^っ。
 と声をかけてあげました。祖母は、家の中か
 らすい飯器を持^ってきて、おにぎりをつくり、
 近所の人や家族にわけていました。わたしは
 こわくて食べれなかつたけど、気持ちとはとて
 もありがたかつたです。次の日の夕方ころに
 は、三角コーンが道路に立^っていました。事
 故もおきないようにな^っていて、安全だな、
 と思いました。水と救えん物資をもらいに行
 きました。ポランテ^ィアの人もたくさんいま
 した。わたしは、平日でもきてくれるなんて
 心のあ^ったかい人だな、と思いました。先生
 たちは、家を一軒一軒まわ^ってきてくれまし
 た。ちよ^っと安心しました。学校へ行くと、
 おみまいの手紙がきていました。またがんば
 ろう！という気持ちになりました。
 ポランテ^ィアに参加された方は、とても大

勢いきました。どろのたくさんはいっていただけ

ん関や一年生教室机に体育館とたくさん

ありましたが、ポランティアの方のおかげ

で、今までよりもきれいになりました。おみ

まいの手紙や千羽づる、大きなはたにメッセ

ージが書いてあって、ものもありました。きえ

ん金も送られてきました。これらはわたし

たちに、勇気と希望をあたえてくれました。

一時は自然の力なので、どうしようもない

と思っ、ていたけれど、それも一人の人が少

しずつや、ていくことによ、て、広い広い校

舎はきれいになり、どろだらけのグラウンド

には石灰がまかれ、どろ水の入ったプールか

らは水がぬかれ、全部そうじされていきました

た。全国のポランティアのみなさん、わたし

たちに勇気と希望をわけてくれて、ありがとう

うございしました。

わたしは、この二つの災害から、一人のた

めになることは、どういうことか、を学びまし

た。そして、それはだれにでもできるとい

ことを知りました。これからは、わたしたちは、自分かできるどんな小さなことでもやりたり、相手が喜んでくれるように考えて行動したりすることが大切です。どんなに小さな行動でも、どんなにかくれた行動でも、きくと喜んでくれる人がいます。これからわたしたちは、思いやりの心を持って、人のためになることをする、ということが大切だと思います。